

第6学年 社会科学習指導案

指導者 2組 千田 愛【公開授業Ⅱ】
男子14名 女子15名 計29名

- 1 大単元名 日本の歴史
小単元名 平和で豊かな暮らしをみざして（教育出版 6年上）

2 小単元について

(1) 児童について

これまでの学習のなかで、本学級の児童は歴史に少しずつ興味をもち、なかでも時代を代表する人物の業績や人々の生活の様子などについて、意欲的に調べたりまとめたりして学習に取り組むようになってきた。また、学習問題に対する自分の予想を基に問題解決にあたる学習にも取り組んできた。

問題解決的な学習を進めるなかで、個人差はあるものの、写真や文献資料等を比較・関連させて時代の変化について読み取ることができるようになってきた。また、交流の場を設定して調べたことや自分の考え、予想を表現したり、友達の考えを聞いたりすることで、自分の考えを深めることができる児童が増えている。アンケートでも、「ペア・グループ交流は好きか」という設問に対し、86%の児童が「好き・だいたい好き」と答えている。調べたことや考えたことをペアやグループ交流で交流することが、このような結果に繋がっているということが分かる。

(2) 教材について

本小単元は、小学校学習指導要領解説社会編第6学年の内容(1)ケ「日華事変、我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。」を受けて設定したものである。その中で、日本国憲法の制定やオリンピックの開催などの戦後の歩みを通して、我が国が民主的な国家として出発したこと、国民の不断の努力によって生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことについて学習する。平和で民主的な国家の一員として、これからの日本の課題やよりよい日本の発展について考えられるようにすることをねらいとしている。また、高度経済成長期には経済が発展するという面だけでなく、公害病などの社会問題が起きていたという面についても学習する。このことで「これからの日本」を考えさせ、獲得した知識を基に今後の日本の在り方を探っていく本小単元は、歴史的な見方・考え方を育成していくために重要な教材でもある。

(3) 指導について

本校の高学年で特に身に付けさせたい力は、「根拠を示しながら、比較・関連・総合して考え、自分の考えを表現できる力」「交流を通して考えを深め、多面的に考える力」である。それらを上手く活用しながら本単元のゴールでは、2020年の東京オリンピックで世界に伝えたいメッセージを資料や今までの学習を根拠に示しながら、交流を通して自分の考えを深めていきたい。そのために、それぞれの学習場面で、写真や新聞記事、人々の話など当時の様子が具体的に分かる資料を提示し、児童が意欲的に学習することができるようにしていきたい。また、既習事項と比較・関連・総合できるような資料を準備し、複数資料を比べたり関連付けたりしながら理解を深めていけるようにしたい。

交流活動は、問題解決や自らの考えを広げたり深めたりするために行う。そのために、グループ交流では、個人で得た情報や考えを児童同士の交流の中で妥当性の検討をし、自分達の考えを整理・分析する。その後の全体交流において、自分達の考えをまとめるためにホワイトボード等に表現することで、断片的であった知識が関連付けられた知識へと変化する。これらの過程を経る中で、歴史的事象を多面的に捉え、歴史的な見方・考え方を養っていきたい。具体的には、戦後の社会の変化や人々の変化、外国との関わり等について、キャッチコピーやメッセージを考える学習を通して交流活動を設定していきたい。

3 小単元の目標

- (1) 日本国憲法の制定やオリンピックの開催などに関心をもち、第二次世界大戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民生活が向上して国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが理解できるようにするとともに、平和を願う日本人として世界の国の人々と共に生きていこうと考える力を育てる。

4 小単元の評価規準

【社会事象への関心・意欲・態度】

- (1) 日本国憲法の制定やオリンピックの開催などに関心をもち、進んで聞き取り調査をしたり、資料収集をしたりして、進んで調べようとする。

【社会的な思考・判断・表現】

- (1) 国民の努力によって我が国が復興・発展したことや、オリンピックを機に我が国が国際社会の中で重要な役割を果たすようになったことを考え、表現している。

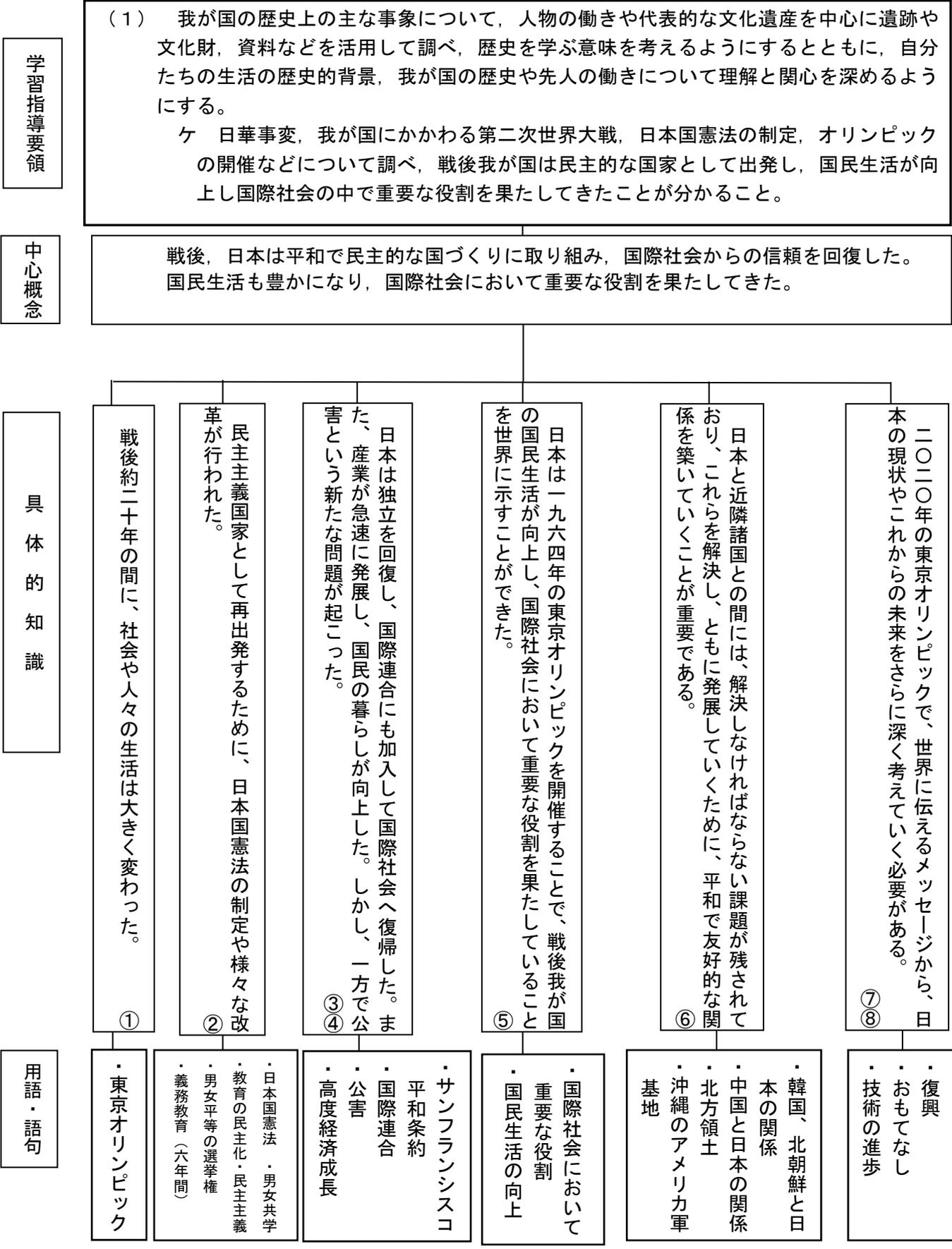
【観察・資料活用の技能】

- (1) 身近な人々から聞き取り調査をしたり、映像や写真、文章などの資料を効果的に活用したりして、戦後の我が国の復興と発展の様子について調べ、調べたことを目的に応じた方法でノートや年表にまとめることができる。

【社会的事象についての知識・理解】

- (1) 戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民生活が向上したことや、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かる。

5 知識の構造図



6 学習指導計画（全8時間）

		主な学習活動	評価規準
第一次 つかむ	1	(1) 年表や資料から、同じ場所の約20年前と約20年後の地域の様子について交流する。 (2) 資料を比較して、気付いたことを発表する。	【関】 我が国の復興と発展に関心を持ち、学習問題を意欲的に追究しようとしている。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 戦争が終わった後から東京オリンピックを開催するまでに発展した日本は、この約20年間でどのように変わったのだろうか。また、今の日本とどのようにつながっているのだろうか。 </div> (3) 社会や人々の生活の変化に着目し、学習問題を設定して予想しながら学習計画を立てる。	
第二次 調べる	2	(1) 日本国憲法や、戦後に行われた改革について調べる。 (2) この時代を表すキャッチコピーを考え、まとめる。	【知】 日本国憲法や様々な改革の内容をつかみ、戦後、日本が民主的な国家を目指してきたことを理解している。
	3	(1) 「世界の仲間に戻った日本」とは、どんな日本なのかを考え、グループで交流してまとめる。	【知】 日本が独立を回復し、国際社会での地位を向上させていった経緯を理解している。
	4	(1) 産業が発展していく一方で、公害の問題も起こったことをつかみ、まとめる。	【技】 資料を読み取ったり、家の人から話を聞いたりして、経済が急速に発展したころの暮らしの変化について調べている。
	5	(1) 1964年のオリンピックに関する資料からオリンピックを迎えた人々の気持ちを想像し、メッセージを考える。 (2) 考えたメッセージをグループで交流し、全体交流をしてまとめる。	【関】 1964年の東京オリンピックの頃の国民生活に関心を持ち、意欲的に調べている。 【思】 1964年の東京オリンピックに向けて生活していた人の立場に立ってその思いを考えることができる。
		6	(1) 日本と近隣の国々との結びつきについて調べる。 (2) 日本と近隣の国々との間に残された課題について考えまとめる。
	第三次 まとめる・深める	7	(1) 2020年の東京オリンピックに関する資料から東京オリンピックを迎える人々の気持ちを想像し、メッセージを個人で考える。
8		(1) 2020年の東京オリンピックで、日本が世界に伝えたいメッセージをグループで交流する。 (2) 全体で交流し、6年2組として2020年の東京オリンピックで世界に伝えたいメッセージを考える。 【6年2組公開授業Ⅱ】	【関】 日本の現状を捉えながら、2020年の東京オリンピック像を考えようとしている。 【思】 根拠を示しながら、自分の意見を友達に適切に表現している。

(1) 目標

2020年の東京オリンピックに向けて、日本の現状を捉えた上で、資料や既習の内容を基にし
ながら世界に伝えたいメッセージを考えることができる。

(2) 本時の評価の観点と評価規準

観点	評価規準	概ね満足できる	支援を要する児童への手立て
日本の現状を捉えながら、2020年の東京オリンピック像を考えようとしている。 【社会的事象への関・意・態】 根拠を示しながら、自分の意見を友達に適切に表現している。 【社会的な思考・判断・表現】		2020年の東京オリンピックで世界に伝えたいメッセージについて、日本の現状を捉えて自分の意見を根拠を示しながら説明している。 (例)私は、日本は東日本大震災から復興しつつあるということ伝えたい。なぜなら、東日本大震災から6年経ったが、世界からたくさんの支援してもらって、そのおかげでオリンピックを開くことができたと思うから。	前時で考えた自分のメッセージが書かれたノートを手元に持たせて発表するように指導する。根拠は指で示しながら発表するように指導する。

(3) 研究仮説に関わって

<学習問題の解決に向けて、子供たちが意欲的に交流する場や方法の工夫>

本時では児童が意欲的に交流することができるように、6年2組として2020年の東京オリンピックで伝えたいメッセージを1つにまとめることを本時のゴールとする。そのための場の設定の工夫として、グループ交流と全体交流を行う。個人で考えたメッセージを、どうしてそのように考えたか根拠を示しながら相手に伝えるのはもちろんだが、東京オリンピックを様々な角度から捉えさせるために、3～4名でのグループ交流と全体交流を行う。自分と異なる考えや共通する考えと出会い、資料を基に整理・分析することで、社会的事象に対する見方・考え方をもちこたせるようにする。東京オリンピックを自国で開催する大きなイベントとして捉えるだけでなく、「日本人として自分もオリンピックを主体的に考えていくのだ。」という気持ちをもたせるために6年2組から発信する世界に伝えたいメッセージを考えさせる。

<p>◇ ぼくは、日本のおもてなしの心を伝えたい。なぜなら、日本に来る世界の人々に日本の素晴らしさを伝えたいから。素晴らしさは日本人の親切な心や公共交通機関の時間の正確さからも分かる。</p> <p>エ 全体交流をする。</p> <p>○ グループで考えたメッセージを發表しましょう。</p> <p>◇ ぼくたちのグループは、1964年の東京オリンピックよりも日本の技術は進歩していることを伝えたい。なぜならば、世界に誇ることのできる日本の技術力で競技会場を建設したり、コンパクトな会場配置をしたりしているから。</p> <p>○ 今日の学習問題に迫るために、それぞれのグループを比べて考えたことや、他のグループに対する自分の考えを發表しましょう。</p>	<p>□ 根拠を示しながら、自分の意見を友達に適切に表現している。 (発言・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の現状から何を優先するか、よりよいメッセージはどれかについて他のグループの考えを聞きながら自分の考えを述べるようにする。 ・ 8グループあるうち、まずは方向性の異なる2, 3グループに發表させる。 ・ 全体で考えるときには、教師がホワイトボードに共通の所を赤でラインを引いたり、異なる考えには青で波線を引いたりして他のグループが考えたメッセージと比較・関連・分類させる。
<p>グループの考え</p> <p>◇ それぞれのグループの考えを分けると「震災からの復興」と「おもてなし」と「技術の進歩」となる。どれも大切だと思うが、ぼく達のグループの「おもてなし」がやっぱり大切だと思う。なぜなら、日本に来た世界中の人々に「日本に来てよかった。」と思ってもらいたいので、日本人の親切な心や未来的な街づくりを感じてもらいたいから。</p> <p>◇ ぼくは、「技術の進歩」については反対だ。なぜなら、昔に比べて確かに日本の技術は進歩しているが、世界の人々に伝えたいメッセージとして考えたときに、この2020年の東京オリンピックで伝えるべきことではないと思うから。</p>	
	<p>□ 根拠を示しながら、自分の意見を友達に適切に表現している。 (発言・ノート)</p>

	<p>③ 本時のまとめをする。</p> <p>○ 今までの学習から、6年2組のメッセージを決めましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年2組としてのメッセージを決めることで、価値により迫るようにする。
<p>終末12分</p>	<p>④ 本時の振り返りをする。</p> <p>○ 今日の学習で考えたことや、2020年の東京オリンピックについてさらに考えたことを書きましょう。</p> <p>◇ 今日は、2020年の東京オリンピックで世界に伝えるメッセージを考えた。ぼくは、復興への感謝が大切だと考えていたが、友達の考えを聞いて、世界に誇れる日本の技術やおもてなしの心があることに気付いた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的にグループから出たメッセージを統合するような発言があっても、それはこの時間で考えた上で出た結論なのでよいこととする。 ・ できるだけたくさんの児童に振り返りを発表させていく。 ・ 自分のこの時間での気持ちの変容だけでなく、友達や他のグループの良かった点についても書くよう指示する。

◇ 私は、みんなの関心が高かった「日本が震災から復興しつつあるということ」がよいと思う。自分達が伝えたいということはもちろんだが、外国の人々もそのことについて関心をもって来日したり、テレビを見たりすると思うから。

◇ ぼくは、「日本は震災から復興しているだけでなく、日本に来る人々におもてなしの心をもって迎えること」がよいと思う。グループやみんなの考えを聞いて、どれも大切だと思ったし、メッセージとして伝えるのに1つだけじゃなく合わせて考えても、世界の人々に十分伝わると思ったから。

<6年2組が考えるもっとも伝えたいメッセージ>
 日本は世界中から支援を受けて震災から復興している。また、おもてなしの心で日本に来る人々を迎えたい。

(5) 板書計画

